

Doctor & Patient Communication

テーマ

自閉スペクトラム症 患者さんに適した 生活環境づくりの提案

高知大学医学部寄附講座児童青年期精神医学特任教授
高橋 秀俊

未診断の自閉スペクトラム症で、 ひきこもり支援を受け始めた成人の患者さんの場合

Aさん(40歳代、男性)は、地方都市の高校卒業後、首都圏の大学に進学しましたが、2年たらずで中退し実家に戻りました。以後、短期間で職を転々とし、20年ほど前にスーパーのアルバイトを3日でやめて以後、自宅にひきこもっています。父が数年前に亡くなり、母と2人暮らしになりました。母が定年退職後、Aさんの将来を心配し役所に相談したところ、未診断の精神障害、発達障害の可能性を指摘されました。そのため、母と保健師同伴で自宅に近い精神科病院を受診しました。

対話例



今日は、どうされましたか？

医師

どうって……。来いと言われて来た。
今日行かないと一生後悔するぞと脅された。



Aさん



ご家族は心配なのでしょうね。
Aさんは、何か困ったことはありませんか？

何も困っていません。
家族が不安がっているだけです。



そうですね。お母さんたちの気持ちを汲んで受診されたのですね。将来の生活、経済的なことは心配ではありませんか？

それは多少心配ですね。



そうかもしれませんね。
今は何とかなっていますが、将来も安心して暮らせるようにすることが大事ですね。
ところで、大学を中退されたのは、なぜですか？

人が多くてうるさすぎて、電車に乗らなくなったからです。



なるほど、これまで勤めた職場は、どのようなところでしょうか？



家電量販店やスーパーにパチンコ店などです。
覚えないといけないことがたくさんあって、ちょっと間違えただけで、すごく大声で怒鳴られて、こんなところで働けるかと思って、すぐにやめました。



そうですね。騒がしいところは苦手でしょうか？



どちらかというと、そうかもしれません。



はじめての場所や状況に慣れるのは難しいですね。見学や体験をさせてもらって少しずつスモールステップで慣れるのがいいでしょう。疲れてイライラしてきたら、クールダウンできるような休憩場所も確保しておくといいでしょう。職場に騒がしい場所があった場合、パーティションを置くなど対策を相談するといいでしょうね。仕事は相性がありますから、Aさんにあう仕事や職場を見つけるために、心理検査や知能検査などを行ってAさんの特徴がわかるといいでしょうね。このような検査を受けますか？



そのうち受けます。今日は結構です。



ところで、食事や睡眠など生活リズムは安定していますか？



バラバラです。

